

31108 薬理学 Pharmacology		2 年次～ 前期 2 単位																	
担当者	藤村 茂	履修可能学科	N 必																
		関連資格	看護 (N)																
サブタイトル																			
授業内容 ・ ねらい	医療技術の高度・専門化や高齢化社会が医療に対してもつニーズの増大、さらにはインフォームドコンセントの実施に伴い、医療の現場では、医薬品の正しい情報や適正使用のための必要な知識の充実と情報提供が求められてきている。本講義では、薬物が生体に及ぼす作用について、臓器別疾患毎に用いられる医薬品の基礎的分野を中心に学習する。主に臨床で汎用される医薬品を中心に薬物の生体への影響について理解するとともに薬物療法の意味が理解できるような知識を身につけることを目的とする。																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>[1] 薬理学総論</td> <td>[8] 循環器系作用薬II 降圧薬・高脂血症治療薬</td> </tr> <tr> <td>[2] 自律神経作用薬I 副交感神経作用</td> <td>[9] 呼吸器系作用薬</td> </tr> <tr> <td>[3] 自律神経作用薬II 交感神経作用</td> <td>[10] 消化器系作用薬I 消化薬・抗潰瘍薬、下剤</td> </tr> <tr> <td>[4] 中枢神経作用薬I 麻酔薬</td> <td>[11] 消化器系作用薬II 肝・胆・膵作用薬</td> </tr> <tr> <td>[5] 中枢神経作用薬II 精神神経系作用</td> <td>[12] 解熱鎮痛抗炎症薬</td> </tr> <tr> <td>[6] 生体活性物質 ヒスタミン・セロトニンなど</td> <td>[13] 内分泌系作用薬 ホルモン・糖尿病治療薬</td> </tr> <tr> <td>[7] 循環器系作用薬I 利尿薬・心臓作用薬</td> <td>[14] 癌化学療法薬、補液</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[15] 医療用医薬品の取り扱いについて、および総まとめ</td> </tr> </table>			[1] 薬理学総論	[8] 循環器系作用薬II 降圧薬・高脂血症治療薬	[2] 自律神経作用薬I 副交感神経作用	[9] 呼吸器系作用薬	[3] 自律神経作用薬II 交感神経作用	[10] 消化器系作用薬I 消化薬・抗潰瘍薬、下剤	[4] 中枢神経作用薬I 麻酔薬	[11] 消化器系作用薬II 肝・胆・膵作用薬	[5] 中枢神経作用薬II 精神神経系作用	[12] 解熱鎮痛抗炎症薬	[6] 生体活性物質 ヒスタミン・セロトニンなど	[13] 内分泌系作用薬 ホルモン・糖尿病治療薬	[7] 循環器系作用薬I 利尿薬・心臓作用薬	[14] 癌化学療法薬、補液		[15] 医療用医薬品の取り扱いについて、および総まとめ
[1] 薬理学総論	[8] 循環器系作用薬II 降圧薬・高脂血症治療薬																		
[2] 自律神経作用薬I 副交感神経作用	[9] 呼吸器系作用薬																		
[3] 自律神経作用薬II 交感神経作用	[10] 消化器系作用薬I 消化薬・抗潰瘍薬、下剤																		
[4] 中枢神経作用薬I 麻酔薬	[11] 消化器系作用薬II 肝・胆・膵作用薬																		
[5] 中枢神経作用薬II 精神神経系作用	[12] 解熱鎮痛抗炎症薬																		
[6] 生体活性物質 ヒスタミン・セロトニンなど	[13] 内分泌系作用薬 ホルモン・糖尿病治療薬																		
[7] 循環器系作用薬I 利尿薬・心臓作用薬	[14] 癌化学療法薬、補液																		
	[15] 医療用医薬品の取り扱いについて、および総まとめ																		
教科書 参考書	教) シンプル薬理学 「南江堂」 参) グッドマン・ギルマン薬理書 「廣川」ほか																		
評価方法	試験																		
事前準備学習 履修条件等	特になし																		